



岸田文雄の決意

拝啓

初秋の候、益々ご清祥のことお喜び申し上げます。
党員の皆様には平素より党勢拡大にご協力頂き厚く御礼申し上げます。

さて、私はこの度の自由民主党総裁選挙に立候補を決意しました。

我國の政治は今、大きな岐路に立っています。

新型コロナウイルスとの戦いに勝利するためには国民の皆様のご協力が必要不可欠です。そのためには国民の皆様の声に謙虚に耳を澄まし、丁寧に政治を進めなければなりません。

次ページ以降には、こうした私の思いを込めた出馬表明を添付しました。
是非一読頂き、ご理解とお力添えをお願い申し上げます。

令和三年九月吉日

衆議院議員

岸田文雄

敬具

「日本は、今、インフラ整備への財政出動をためらってはならない」

令和2年11月24日の「足立敏之国政セミナー」において、衆議院議員 岸田文雄先生が基調講演に立ち、インフラ整備の重要性と、そのための公共投資の必要性について力強く主張されました。



1. 防災・減災、国土強靱化に時間的余裕はない

令和2年7月豪雨災害の熊本県を視察しました。その後川辺川ダムに対する政策見直しがスタートしましたが、足立先生が的確なそして回りをしっかり説得させる説得力のある説明をされて大きなインパクトを与えられました。結果として熊本県知事は川辺川ダムの政策を大きく転換する結論を出しました。

災害の時代だと言われている今の日本。災害は息吐く息つく暇なくやって来ます。こういった時代において国民の命や暮らしを守らなければいけない国土強靱化、防災・減災これも決して時間的な余裕はなく、躊躇している暇はありません。



2. 我が国のインフラ整備の遅れ

外務大臣4年7ヶ月勤める中で世界中を回って日本のインフラについていろんなことを考えました。実際、自分の目でこの日本のインフラの世界における位置付けを痛感しました。また、足立先生から空港、港湾、道路、様々なインフラについて、いかに日本が遅れているか、問題があるか、努力をしなければならないかを説明頂きました。空港、港湾、道路、様々なインフラについて、実際自分の目でこの日本のインフラの世界における位置付けを痛感しました。改めて日本のインフラの整備について努力をしなければいけません。昨今は老朽インフラのメンテナンスの問題これも大きな課題として取り上げられてきています。

3. インフラ整備の財政出動に躊躇すべきではない

日本の国の財政を考えても、今は絶対にためらってはなりません。こうしたものは、今、しっかりと勇気をもって出さなければなりません。

なぜならば、財政は、最後は国際社会や市場が判断をします。その判断によって評価が変わり、そして大きな影響が出てきます。今、アメリカをはじめ世界各国が勇気をもって財政出動を行って、この危機に立ち向かっているところです。この時に日本が出遅れることがあってはならないのです。

4. ウイズコロナの時代のインフラ

ウィズコロナ時代において、将来に向けて国のインフラ整備また建設関連産業の皆様方の取り組みは、新たな局面を迎えます。

私も前回の総裁選において、「田園都市構想」の推進を訴えましたが、地方にこそインフラの充実を図り、最新の技術・インフラを実装することによって、高齢者の足を確保し、遠隔医療、遠隔教育こういったものを展開することによって、地方の活力を考えることが必要です。

日本においては全国的に新しいこのインフラ需要が発生していくことが見込まれ、建設産業の皆様方に大きなチャンスが広がっていく、こんなことを感じます。

